

国宝天守保存リレー講座
姫路城の歴史と保存のあゆみ

姫路市教育委員会文化財課
文化財建造物保存修理技術者
福田 剛史

姫路城の概要

姫路城の歴史と築城の要素

- ・ 1581年（天正9年）羽柴秀吉が三層の天守を築き、近世城郭「姫路城」の基礎が完成する。
- ・ 1609年（慶長14年）池田輝政による大改修により、三重の曲輪、連立式天守など、現在の姫路城（城下町も）の大部分が完成
- ・ 1618年（元和4年）本多忠政、西の丸の増築や三の丸の改修などを行い、現在の姫路城の姿が整う

お城の築城 4つの要素

「選地」

お城をどこに築くか。城の堅固さや、領国経営の成否のカギ。

「縄張り」

全体像の設計。曲輪、石垣・堀、建物の配置の仕方、城下の町割り

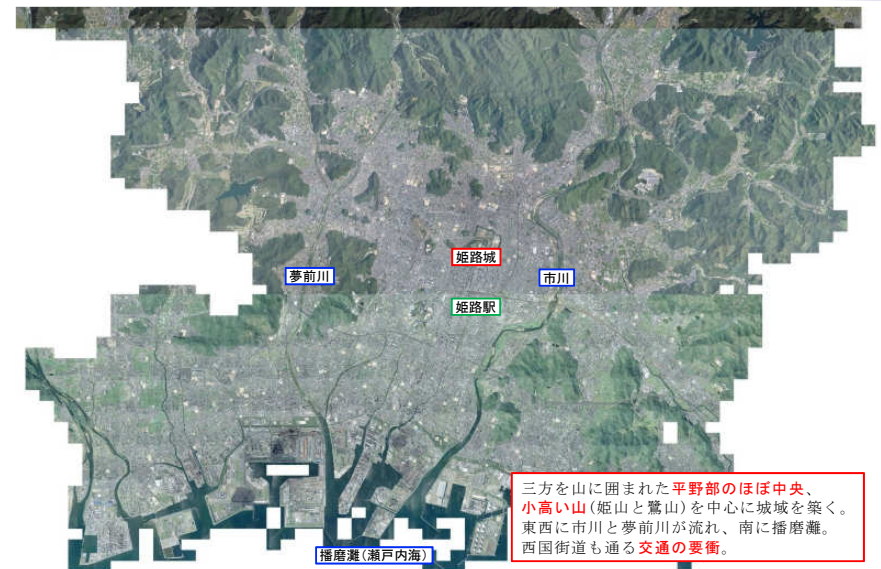
「普請」

石垣、土塁、堀の築造など土木工事、又は土木工事を伴う建築工事。
城の防御を固め、縄張りの意図を反映する基礎となるもの。

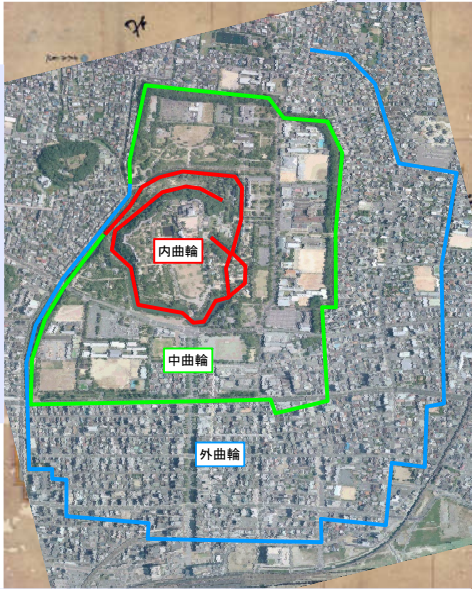
「作事」

天守、櫓、門の建設など建築工事。城の機能の真価を発揮させるもの。

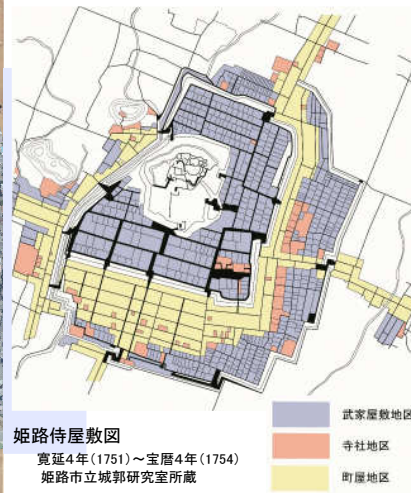
姫路城の「選地」



姫路城の「縄張り」(曲輪構成)



- ・内、中、外の3重の曲輪
- ・**梯郭式**の縄張り（渦郭式とも）
- ・城下町も含める**総構え**のつくり



内曲輪の「普請」(石垣の編年)

《姫路城主郭部石垣変遷図》



内曲輪の「普請」(Ⅰ期:羽柴時代)



野面積み (姫路城菱の門東方)

- ・**野面石** (自然石) を使用 (矢穴はない)
- ・「布積み崩し」で「**算木積み**」が未発達
- ・**石垣高さ**が低く、「二段石垣」で補う
- ・石材は、凝灰岩、チャート、流紋岩
- ・**要所に巨石**を配す
- ・間詰石は円礫 (河原石) が優先
- ・「**転用材**」を多用し、「**刻印**」はない



上山里下段



への渡櫓

内曲輪の「普請」(Ⅱ期:池田時代)



打込みハギ (姫路城天守台)

- 扇の勾配
- ・切込みハギの算木積み

要所では「打込みハギ」も見られる



隅角部稜線を境に、右手がⅠ期、左手がⅡ期

- ・粗割りされた加工石を使用 (矢穴が顕著)
- ・「乱積み」又は「落し積み」の高石垣
- ・「**算木積み**」がほぼ完成。「**反り**」出現
- ・石材は、凝灰岩系、一部花崗閃緑岩、砂岩、チャートが混じる
- ・間詰石は角礫と円礫 (河原石)
- ・「**転用材**」は減少、「**刻印**」多数

内曲輪の「普請」(Ⅲ期:本多時代)



西の丸ワ～カの櫓間

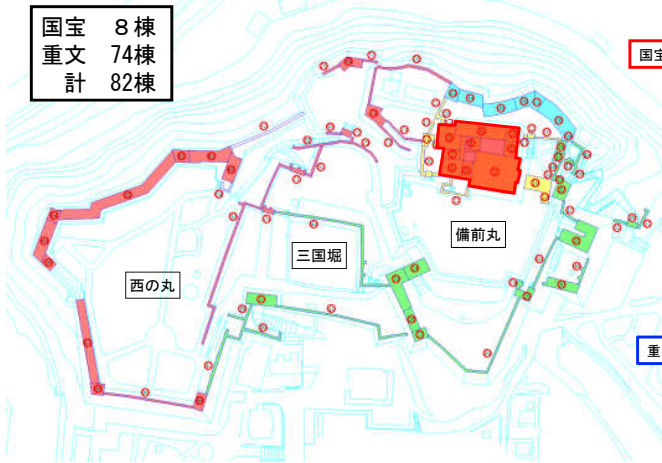


庭園池の切込みハギ (姫路城武蔵野御殿跡)

- ・石材の加工度、積み方など、技術的には池田時代と共通性が多い
- ・石材は、凝灰岩の石質が一樣で、規格性が高い
- ・石積みの一部に「布積み」の傾向

姫路城の「作事」 国宝・重要文化財指定 (建造物)

国宝 8棟
重文 74棟
計 82棟



国宝	重文
1. 本丸御殿	1. 西の丸御殿
2. 本丸御殿	2. 西の丸御殿
3. 本丸御殿	3. 西の丸御殿
4. 本丸御殿	4. 西の丸御殿
5. 本丸御殿	5. 西の丸御殿
6. 本丸御殿	6. 西の丸御殿
7. 本丸御殿	7. 西の丸御殿
8. 本丸御殿	8. 西の丸御殿
9. 本丸御殿	9. 西の丸御殿
10. 本丸御殿	10. 西の丸御殿
11. 本丸御殿	11. 西の丸御殿
12. 本丸御殿	12. 西の丸御殿
13. 本丸御殿	13. 西の丸御殿
14. 本丸御殿	14. 西の丸御殿
15. 本丸御殿	15. 西の丸御殿
16. 本丸御殿	16. 西の丸御殿
17. 本丸御殿	17. 西の丸御殿
18. 本丸御殿	18. 西の丸御殿
19. 本丸御殿	19. 西の丸御殿
20. 本丸御殿	20. 西の丸御殿
21. 本丸御殿	21. 西の丸御殿
22. 本丸御殿	22. 西の丸御殿
23. 本丸御殿	23. 西の丸御殿
24. 本丸御殿	24. 西の丸御殿
25. 本丸御殿	25. 西の丸御殿
26. 本丸御殿	26. 西の丸御殿
27. 本丸御殿	27. 西の丸御殿
28. 本丸御殿	28. 西の丸御殿
29. 本丸御殿	29. 西の丸御殿
30. 本丸御殿	30. 西の丸御殿
31. 本丸御殿	31. 西の丸御殿
32. 本丸御殿	32. 西の丸御殿
33. 本丸御殿	33. 西の丸御殿
34. 本丸御殿	34. 西の丸御殿
35. 本丸御殿	35. 西の丸御殿
36. 本丸御殿	36. 西の丸御殿
37. 本丸御殿	37. 西の丸御殿
38. 本丸御殿	38. 西の丸御殿
39. 本丸御殿	39. 西の丸御殿
40. 本丸御殿	40. 西の丸御殿
41. 本丸御殿	41. 西の丸御殿
42. 本丸御殿	42. 西の丸御殿
43. 本丸御殿	43. 西の丸御殿
44. 本丸御殿	44. 西の丸御殿
45. 本丸御殿	45. 西の丸御殿
46. 本丸御殿	46. 西の丸御殿
47. 本丸御殿	47. 西の丸御殿
48. 本丸御殿	48. 西の丸御殿
49. 本丸御殿	49. 西の丸御殿
50. 本丸御殿	50. 西の丸御殿
51. 本丸御殿	51. 西の丸御殿
52. 本丸御殿	52. 西の丸御殿
53. 本丸御殿	53. 西の丸御殿
54. 本丸御殿	54. 西の丸御殿
55. 本丸御殿	55. 西の丸御殿
56. 本丸御殿	56. 西の丸御殿
57. 本丸御殿	57. 西の丸御殿
58. 本丸御殿	58. 西の丸御殿
59. 本丸御殿	59. 西の丸御殿
60. 本丸御殿	60. 西の丸御殿
61. 本丸御殿	61. 西の丸御殿
62. 本丸御殿	62. 西の丸御殿
63. 本丸御殿	63. 西の丸御殿
64. 本丸御殿	64. 西の丸御殿
65. 本丸御殿	65. 西の丸御殿
66. 本丸御殿	66. 西の丸御殿
67. 本丸御殿	67. 西の丸御殿
68. 本丸御殿	68. 西の丸御殿
69. 本丸御殿	69. 西の丸御殿
70. 本丸御殿	70. 西の丸御殿
71. 本丸御殿	71. 西の丸御殿
72. 本丸御殿	72. 西の丸御殿
73. 本丸御殿	73. 西の丸御殿
74. 本丸御殿	74. 西の丸御殿

姫路城の「作事」の特徴 日本建築史の観点から

①曲輪構成の真価を発揮する建造物の巧みな配置



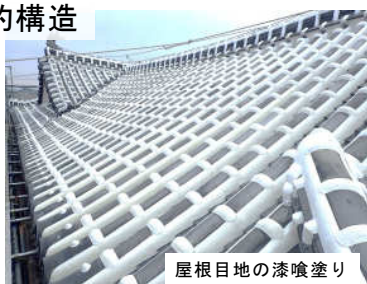
イーグレ姫路 屋上より

姫路城の「作事」の特徴 日本建築史の観点から

②漆喰を多用した防火的、美観的構造



壁・軒裏の漆喰塗り



屋根目地の漆喰塗り



懸魚の漆喰塗り

姫路城の「作事」の特徴 日本建築史の観点から

③ 防御施設としての装いの充実



姫路城の「作事」の特徴 日本建築史の観点から

④ 滴水瓦と様々な飾り瓦の使用



姫路城の保存のあゆみ

築城から辿る保存の動向

姫路城の保存のあゆみ(江戸・明治)

- ・ 1581年（天正9年）羽柴秀吉が三層の天守を築き、近世城郭「姫路城」の基礎が完成する。
- ・ 1609年（慶長14年）池田輝政による大改修により、三重の曲輪、連立式天守など、現在の姫路城（城下町も）の大部分が完成
- ・ 1618年（元和4年）本多忠政、西の丸の増築や三の丸の改修などを行い、現在の姫路城の姿が整う
 ※本多氏以後、松平（奥平、結城）、榊原氏などの親藩・譜代大名が頻繁に交代。
 寛延2年（1749年）から廃藩までの約120年間、酒井氏10代の城主が続く。
 この間にも、大天守など、多数の修理が行われていた。
- ・ 1871年（明治4年）版籍奉還に伴い、姫路城は兵部省（後、陸軍省）の管轄に
- ・ 1873年（明治6年）陸軍省により全国の城郭が存城と廃城に区分
 姫路城は存城の1つに選定（全国に56カ所）
- ・ 1874年（明治7年）歩兵第十連隊の一中隊が姫路城に仮営する
- ・ 1876年（明治9年）姫路営舎の完成により歩兵第十連隊が転営する
- ・ 1878年（明治10年）陸軍省による姫路城の修繕工事が行われる（詳細不明）
- ・ 1878年（明治11年）中村重遠陸軍大佐、陸軍卿山県有朋に名古屋、姫路両城の保存についての意見書提出。翌年指令。
- ・ 1882年（明治15年）リノ櫓、備前丸の建物が失火により焼失

姫路城の保存のあゆみ(明治・大正・昭和)

- ・ 1908年（明治41年）陸軍省による小規模修理が数度の実施されていたが、なおも頽廃が進む。市民等により **白鷺城保存期成同盟会** が結成され、保存修理の請願が本格化する。
- ・ 1910年（明治43年）姫路藩士石本家六男の陸軍次官、石本新六陸軍中将男爵の斡旋も得て、陸軍による **本格的な保存修理(明治の大修理)開始**。 ※西の丸は除く。
- ・ 1911年（明治44年）明治の大修理完了。市民より、姫路城を市へ無償で払下げ、一般公開すべきとの意見が台頭する。堀音吉市長、内務・陸軍両大臣に無償払い下げを出願。
- ・ 1912年（大正元年）陸軍大臣石本新六の助力により **市へ無償貸し下げ**。姫路城及び姫山公園の一般公開開始。
- ・ 1919年（大正8年）陸軍による **西の丸の保存修理開始**。翌年完了。
- ・ 1922年（大正11年）国有財産の整理に伴い、本丸、二の丸のほか、三の丸の軍用地以外は **大蔵省の管轄に**
- ・ 1925年（大正14年）歩兵第十連隊、岡山に転営
大蔵省、財政上の問題から、**管轄地の売却**を計画
滋岡長彦市長を筆頭に **姫路城勝地保存期成同盟会** を結成
顧問に酒井忠正伯爵(26代当主)を迎える
- ・ 1926年（昭和元年） **史蹟名勝天然記念物法** による指定請願。調査開始。

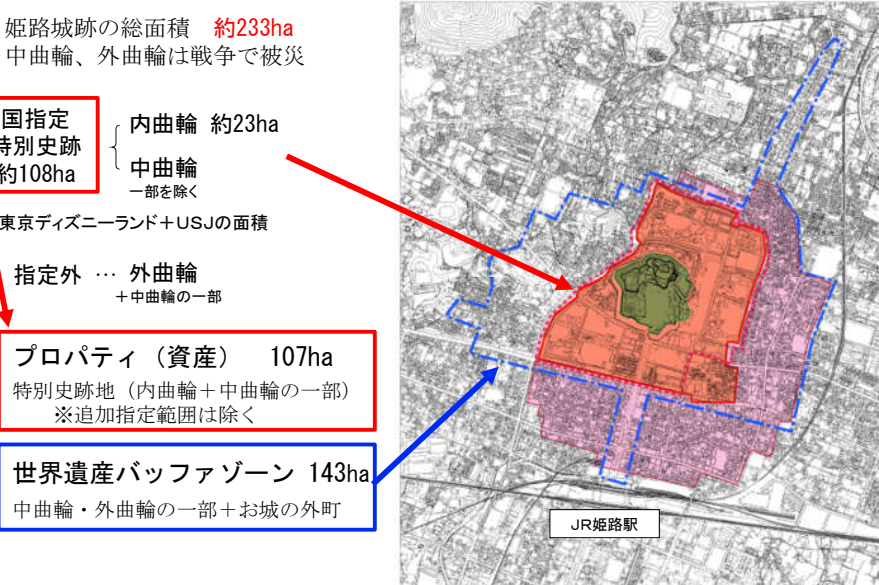
姫路城の保存のあゆみ(昭和の大修理まで)

- ・ 1928年（昭和3年） **史蹟名勝天然記念物法** に基づき「**史蹟**」に指定
- ・ 1930年（昭和5年）市が「**史蹟姫路城**」の管理者に。所有は文部省。
- ・ 1931年（昭和6年） **国宝保存法** に基づき大天守などが「**旧国宝**」に指定。
文部省の援助を得て市が **西の丸の再修理開始**。翌年完了。
- ・ 1933年（昭和8年）西の丸修理を契機に、完全な城郭を再現すべしとの声があがり、市が **三の丸復興計画** を作成。
- ・ 1934年（昭和9年） **西の丸** のタの渡櫓からヲの櫓まで石垣もろとも **崩壊**
文部省直営による修理事業「**昭和の大修理**」開始
- ・ 1945年（昭和20年）市に **2度の空爆**（姫路城は奇跡的に被害を免れる）
- ・ 1950年（昭和25年） **文化財保護法施行** により「旧国宝」は「**重要文化財**」に
「史蹟」は「**史跡**」に移行
文化財保護委員会により「**昭和の大修理**」が再開される
- ・ 1951年（昭和26年）大天守ほか8棟が「**国宝**」に指定される
- ・ 1956年（昭和31年）概ね中堀以内が「**特別史跡**」に指定される
- ・ 1964年（昭和39年）文化財保護委員会による「**昭和の大修理**」完了

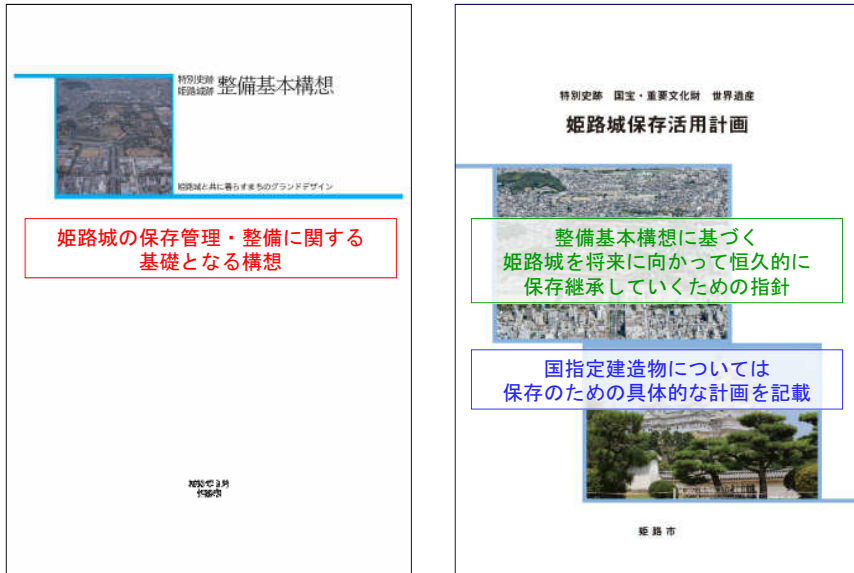
歴史から辿る姫路城(姫路城保護の近況)

- ・ 1966年（昭和41年）土堀等の **保存修理開始**（～昭和49年。以降、市が修理）
- ・ 1969年（昭和44年）市、文化庁、大蔵省（現財務省）、兵庫県により
「**特別史跡姫路城跡整備管理方針（四者協定）**」策定
- ・ 1975年（昭和50年） **国庫補助事業による保存修理開始**（～平成5年）
- ・ 1986年（昭和61年）「**特別史跡姫路城跡整備基本構想（旧基本構想）**」策定
- ・ 1993年（平成5年） **世界遺産登録**
- ・ 1994年（平成6年）「**平成中期保存修理計画**」による **保存修理開始(国補助)**
（～令和5年）
- ・ 2008年（平成20年）「**特別史跡姫路城跡整備基本構想**」改定（**新基本構想**）
- ・ 2009年（平成21年） **大天守保存修理工事着工**（～平成27年）
- ・ 2011年（平成23年）「**特別史跡姫路城跡整備基本計画**」策定
- ・ 2013年（平成25年）「**姫路城重要文化財建造物保存活用計画**」策定
- ・ 2024年（令和6年）「**令和中期保存修理計画**」による **保存修理開始(国補助)**
「**姫路城保存活用計画**」策定及び認定

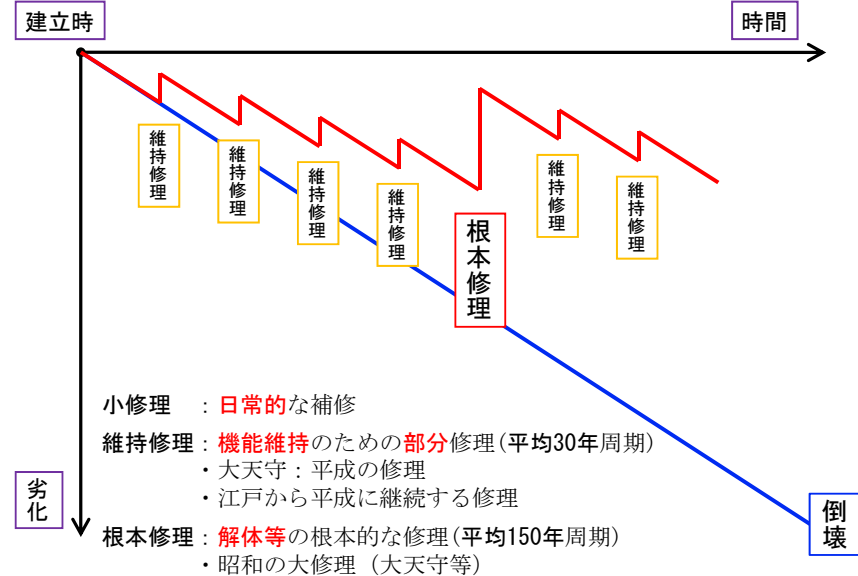
世界遺産の登録範囲



姫路城を保存・活用するための計画



文化財の修理サイクル



姫路城の維持修理(部分修理)計画

修理の内容：漆喰塗替え、屋根瓦葺替え(又は一部差替え)など

計画的修理の意義：過度な破損の防止(崩壊する前に)

伝統技術の保存・継承(職人の育成)

継続的な天然材料の確保(生産・加工技術)

○大天守以外(81棟)の維持修理計画

「令和中期保存修理計画」に基づく修理(30年計画)

計画期間：令和6年(2024)～令和36年(2054)

○大天守の維持修理計画(規模が大きすぎるため、別計画)

概ね50年ごとに修理

次回開始予定：令和46年(2064)

※いずれ根本修理も必要となるだろうが、維持修理のみで維持できるのが理想

文化財建造物の保存修理システム

